



DoKoネット

—同志社大学理工学部同窓会報—
第13号 (2010)



多々羅（たたら）キャンパス（京都厚生年金休暇センター ウェルサンピア京都 跡地）

What's New!

次期役員候補の推薦お願い

会則第6条、第9条により次期総会（2010年11月予定）をもって現在の役員である会長、副会長、監事は任期満了となり改選します。会員の皆さまに候補者の推薦をお願いします。自薦、他薦いづれでも結構ですが他薦の場合は事前にご本人の了解を得てください。事務局まで郵便、FAXまたは電子メールでご連絡ください。総会予定日の7日前をもって締切ります。

2010年9月13日現在で受付けた候補者はつぎのとおりです。

会長（1名）候補	橋詰 源治（1968年 電気卒）
副会長（2名以内）候補	青山 栄一（1993年 機械博士課程修了）
監事（2名）候補	候補なし

なお会則第7条、第8条により幹事（監事とは別）は会長によって委嘱され幹事長と会計幹事は幹事の互選により選任されます。総会で幹事が決まるわけではありませんが適任者があれば事務局までお知らせください。

2010年度 第23回理工学部同窓会リユニオン 2010年11月7日（日）今出川キャンパス

第1部	10：00～	同志社大学ホームカミングデー2010
第2部	14：00～15：00	理工学部同窓会総会
第3部	16：00～	5N卒業年グループリユニオン

－卒業年グループリユニオンの世話役を同窓会事務局までご推薦下さい－

2010年度のリユニオン第3部は卒業年グループごとにお集まり願いますが、特に5N周年（S30、35、40、45、50、55、60、H2、7、12、17年卒業）の方々には特別に企画いただく予定となっております。

詳細は下記ホームページでお知らせします。

理工学部同窓会ホームページアドレス <http://dokonet.doshisha.ac.jp/>

このページは理工学部同窓会情報と共に理工学部同窓会リユニオンの企画や卒業生の方々の掲示板としてご利用いただけます。

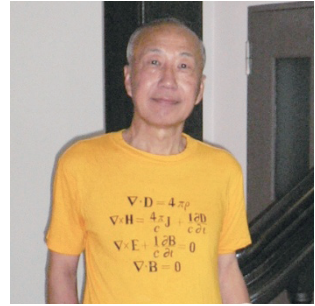
次号同窓会報“DoKoネット”第14号は2011年10月に発行いたします。

ホームページの活性化に皆様のご協力をお願いします。

表紙写真：2010年9月1日から国際交流及び地域との共生を目指した活動を積極的に展開している多々羅（たたら）キャンパス。同窓会（会議室利用：有料）などにご利用ください。

ごあいさつ

同志社大学理工学部同窓会
会長 上西 勝也



日本の少子化は止まる気配がありません。大学でも対策として優秀な入学希望者、先生方の誘致とともに地域を含めたPRに懸命です。同志社大学は経営も健全であり当面、心配ないといわれていますが将来のことまではわかりません。卒業生としてできることがあれば協力したい気持はいっぱいです。

しかし依然として同窓会の活動は低調です。実際の運営は幹事会や事務局で行われていますが本職の忙しさを理由に動きが鈍く議決しても行わずの風潮があるようです。とりわけ若い人たちの考えにもとづいた企画がないようでは動脈硬化をきたした人間のからだと同じで、そのような組織に発展を期待することはできません。

幹事会に頼りになる人たちの参加を期待しています。せめて各学年、学科を代表する、ひとりが幹事になっていただきたいのです。自薦、他薦いずれでも結構ですが大学に残られた卒業生である先生方、各学年や学科の同窓会で世話をされる方が適任者をご存知かと思えます。事務局にご連絡をお願いいたします。

名簿の作成、ホームページの運用、電子メールの活用、懇親会のあり方など懸案が山のようにありますが、いまのところは、あるがままの現実を受け入れ最大の努力をしていくより仕方がありません。わたしは次の総会で任期がおわります。次期会長や副会長は総会で決まりますが、どなたが就任されましても一層のご協力をお願い申し上げます。

写真のわたしは、かつてMITでの研修に参加したとき売店で買ったマックスウェルの方程式を描いたシャツを着ています。同方程式は在学当時、岩本、滝山、鳴海の諸先生にご教授いただきましたが、わたしと同じく1962年電気卒業の小斎正則くんが卒論発表会るとき滝山先生のご指示により宙で黒板に書かれ説明されたことは、いまもって感服しております。小斎くんはそのとき、 ∇ (ナブラ) をつかわずに長い式で書かれたように思うのですが…。もう50年まえのことです。

(昭和37(1962)年電気学科卒)

久しぶりの黒部湖

同志社大学理工学部同窓会
幹事 橋詰 源治



1988年に第1回、リユニオンが開催され、早や23年目を迎えました。

この間、歴代会長、役員の方々の努力と会員皆様の温かいご支援により、同窓会組織は年々充実してきましたことに深く感謝申し上げます。しかしまだまだ多くの問題を抱えているのが現状ですが、立派なレールを敷いていただいたので、役員一同力を合わせて頑張っていかなばと思います。

さて私は今年の8月初旬に関西電力(株)様のご案内で黒部川第四発電所見学会に参加することができました。

大町の扇沢より関電トンネル(映画『黒部の太陽』・大破碎帯)－黒部ダム(ドーム型アーチダム、高さ186m、2億立方m)－黒四発電所(最大33万5千kw、水力国内4位)－樺平駅…宇奈月駅へと黒部峡谷を上部より下るコースでした。



現在のダムの遠景

昭和40年、2年生の夏休みに電気工学科の川村邦明君、機械工学科の高岡正宣君の3人で立山登山をしました。雷鳥沢－別山乗越－立山連峰を縦走し、眠下の黒部ダムのエメラルドグリーンの湖水の雄大さに感動し、雄山の山小屋で宿泊、早朝、一の越より黒部湖畔へ下りました。湖畔から真新しい黒部ダムが白く光り輝いていたのを思い出しました。現在のダムはかなり黒ずんでいますが大自然の中に完全にとけ込んでいました。

45年の歳月が過ぎ去りましたが、当時の事は忘れる事はありません。

人間の情熱と勇気とそして英知があれば計り知れない物ごとが出来た事を改めて教えられました。

私達のこの同窓会組織も「黒部の太陽」の様に大破碎帯を突破し、充実したものと成る様に努力せねばと思います。

皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げ、最後になりましたが、ご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

(昭和43(1968)年電気工学科卒：(株)橋詰電気工業所 代表取締役)

インテリジェント情報工学科, 情報システムデザイン学科

情報系2学科は、2010年4月にインテリジェント情報工学科92名、情報システムデザイン学科109名の新生を迎えました。またインテリジェント情報工学科、情報システムデザイン学科の両学科から総計96名が新たに情報工学専攻博士課程前期課程に入学し、後期課程にも1名の学生が入学しました。また今後の同志社の重要なミッションである国際化については、2010年秋学期から開講される工学研究科国際科学技術コースに、ダブルディグリー協定を締結しているフランスのEcole Centrale Intergroup (Lille) から1名、中国の西安科技大から2名の学生を受け入れることとなりました。教育体制としては、2010年4月から程俊、佐藤健哉の両先生が教授に昇任されました。また就職については、昨今の厳しい経済状況の中でも健闘し、昨年と変わらない実績を挙げることができました。これもひとえに卒業生の皆様方の、それぞれの職場でのご活躍のおかげと、感謝いたしております。



写真(右)が芳賀教務主任

本年度も従来通り、次のような研究室の構成で教育・研究にあたっております。
〈インテリジェント情報工学科〉情報数理工学研究室(渡辺陽一郎教授, 程俊教授), 情報システム学研究室(金田重郎教授, 芳賀博英教授), 知識情報処理研究室(渡部広一教授, 土屋誠司助教), 知的機構研究室(柳田益造教授, 坂東敏博准教授), 知的システムデザイン研究室(三木光範教授, 吉見真聡助教), 知能メカトロ情報システム研究室(橋本雅文教授), 〈情報システムデザイン学科〉社会情報学研究室(下原勝憲教授, イワンタネブ准教授), 知能メカトロ情報システム研究室(高橋和彦教授), 共創情報学研究室(片桐滋教授, 大崎美穂准教授), 応用メディア情報研究室(大久保雅史教授, 土屋隆生教授), ネットワーク情報システム研究室(佐藤健哉教授, 小坂隆浩専任講師), 音声言語処理機構研究室(山本誠一教授, 西田昌史准教授)。今後とも皆様方のますますのご支援をお願いいたします。

教務主任 芳賀 博英

電気工学科, 電子工学科

本年度は、電気工学科94名、電子工学科93名、電気電子工学専攻前期課程86名、後期課程3名の新生を迎えました。総数としては、学部では電気工学科369名、電子工学科383名、大学院では前期課程153名、後期課程11名の学生が、勉学および研究に励んでいます。また、2010年4月より、電気工学科に高橋康人助教が着任さ

学科紹介

れました。

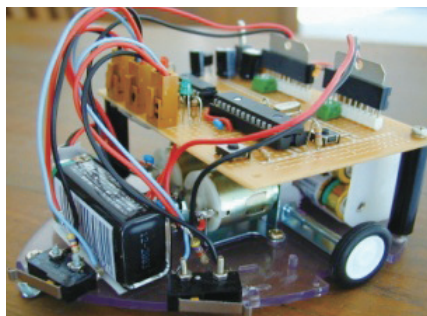
理工学部では、基礎を重視した教育を行っており、学生実験では、実際に物に触れ、ものづくりの体験から学べるよう配慮しています。電気系学科では、その設備面も非常に充実しているところではありますが、本年度より、3年生秋学期の学生実験「電気工学実験II」と「電子工学実験II」において、プレゼミ配属を実施致します。卒業研究へのスムーズな移行を図るための新たな試みです。

就職については、就職委員・笹岡秀一先生から、「昨今の就職状況は依然厳しいままですが、その中でも院生は比較的良好で、学部生も昨年並み以上の状態です。また、大学院進学者が昨年よりさらに増加したことが特徴的です。」とのコメントを頂きました。進路の概要は次の通りです。学部生については、進学130名程度（うち、他専攻11名、他大学院は志望者も含め25名程度）、就職内定71名、公務員志望7名、教員志望2名です。大学院生（前期課程）就職内定60名、進学2名です。

本年3月には実験実習センターの藤井繁信先生および小野雅章先生が定年退職されました。また、2009年9月には行村建先生が退職されました。先生方の長年のご尽力に、心からお礼申し上げます。

最後に悲しいニュースですが、姫野有三先生（73歳）が2010年2月8日に、前川道介先生（86歳）が2010年6月1日に永眠されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

教務主任 戸田 裕之



製作実験で作成されたマイクロコンピュータ制御ロボット

機械システム工学科，エネルギー機械工学科

本年度の入学生は、新一年生として両学科合わせて250名（機械システム149名、エネルギー機械101名）が入学しました。両学科共に定員を上回る高い競争率の受験に合格した新入生です。一方、機械系学科では、能力を有する学生には大学院（工学研究科機械工学専攻）への進学を奨めており、2010年度は93名が大学院に入学し、現在2年生と合わせて合計181名が博士課程前期（修士）に在籍しています。

また、博士課程後期（博士）には13名が在籍しています。この機械工学専攻では、2008年度の文部科学省の大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）として「安全・安心」をキーワードとした大学院教育プログラムが採択されました。このプログラムでは「安全・安心」の設計技術者を養成することを目的に、新しく設定された課程（コース）の下、選抜された二十数名が“Safety Engineering”（英語による講

義) および弁護士や政府機関に所属する外部専門家によるリレー講義“技術者倫理”の二つの特別講義を受講することで「安全・安心」に対する基礎知識を身に付けます。さらに、フィールド実習として企業に派遣し、事例(事故)調査(1年次)、KY(危険予知活動)(2年次)を行います。これにより、企業の「安全・安心」に対する取り組みを学びます。さる3月に「安全・安心」GPワークショップを開催し、(財)中央労働災害防止協会や(独)労働安全衛生総合研究所の方々などで構成される外部評価委員からも高い評価を受けました。今年度は、国内外の企業で2~3週間のKYインターンシップを行います。課程修了後は講義と体験実習で培った経験と知識を礎に社会で貢献できる人材となることを期待しています。



山口教務主任

2010年3月には横山直人助教がご退職になりました。一方、2010年4月より機械システム工学科に木田重雄教授が機械系学科のメンバーとして加わりました。また、エネルギー機械工学科の平山朋子准教授は2010年9月より1年間、スイスに在外研究に出かけられることになりました。

世界的不況、大学生の就職、また教育・研究におきましても同窓会メンバーの方々を中心として、関係する企業にも益々のご協力をお願いすることが重要かと考えておりますのでご支援よろしくお願い致します。

教務主任 山口 博司

機能分子・生命化学科・化学システム創成工学科

理工学部化学系の2学科の機能分子・生命化学科、化学システム創成工学科は、改組3年目を迎えました。これらの新学科へ入学した一期生が今年度は3年生になり、新学科としての完成が近づいております。これらの2学科は、それぞれ、「分子の性質と独創性で、先端領域を開拓する」と「新しい化学工学の視点で、持続可能な社会形成を支える」をモットーに、教育・研究に従事しております。今年度は、機能分子・生命化学科は、新入生93名、化学システム創成工学科では、新入生107名を新たに迎えました。また、工業化学専攻の大学院生は、博士課程(前期)1年が105名、博士課程(前期)1年が93名、博士課程(後期)は、9名となっています。



水谷教務主任

今年度の化学系学科の動きとしては、大学における安全関連の施設の充実が図られ、高圧ガスのボンベ庫の設置等の工事が夏休み期間中に行われました。また、防災訓練

学科紹介

の実施も9月に予定されています。大学の研究室においても、安全面に留意し、いろいろな法令の遵守が必要であることを再認識させられています。

また、本年度も昨年に引き続き、来年度大学院前期課程の受験者数が140名を超える状況であり、卒業生の皆様もお察しの通り一昨年秋以来の世界的不況の影響による就職状況を反映していると思われます。今後とも先輩諸氏の皆様の益々のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

化学系教員の構成としては、数理解析研究室の堀内龍太郎教授が2010年3月末で退職されました。長年の教育研究指導にご尽力されましたことに、心からお礼申し上げます。また昨年度9月より機能有機化学研究室の北岸宏亮助教授が米国スクリプス研究所に在外研究で出かけられておりますが、今年の8月に帰国される予定です。材料システム研究室の高野頌教授が、ドイツのシュレスビッケーホルスタイン大学に、8月より2ヶ月弱の予定で在外研究に出張されます。

教務主任 水谷 義

環境システム学科

工学部の理工学部の改組後3年になります。環境システム学科は、来年度は卒論生として理工学部入学の学生を迎えることになります。学部改組後、学生が環境システム学科でのどのような研究課題に関心を持っているかを知ることが出来そうです。人事面では、環境システム学科の創設時からの「新エネルギーシステム研究室」をご担当の伊藤教授が、来年度3月に定年を迎えられます。現在、任期付き教員一名を含めて11名の教員が学生や院生の研究指導や研究に励んでおります。

環境システム学科では、2008年度の学部改組に伴い、学部教育のカリキュラムの組み替えがなされ、基礎的な地球科学、生態科学、などの基礎科学教育と、それらを基礎とした環境教育科目を充実しております。現在、さらに将来の環境問題の解決に十分な知識を備えた学生の養成に努めています。学生は、習得科目により理学士、工学士を選択できるようになっています。

卒業研究では、以下の研究室において、卒業研究を通じて問題解決の実践を行っています。環境システム学科では、「地球システム科学」(林田 明教授、福間浩司准教授)、「環境保全、防災科学」(増田富士雄教授、横尾頼子専任講師)、「生命環境保全」(武田博清教授、光田重幸准教授)、「新エネルギーシステム」(伊藤靖彦教授、後藤琢也准教授)、「環境システム工学」(盛満正嗣准教授)、「人間環境」(山下正和教授)、「地域環境」(山根省三准教授)、の7つの研究室において、学生や院生が研究に励んでいます。

環境システム学科は、2008年3月に最初の卒業生を送り出し、本年度の3月には、第3期生が巣立っていきました。この3年間は、就職の状況が悪化してきております

が、学生は各種の職種に就職したり、大学院に進学し研究を展開しております。環境システム学科において学んだ知識や、卒業研究の実行を通じて得られた自信を持って、環境問題を意識し、自然環境と人間社会の調和に貢献できる人材が養成され社会的に活躍することが期待されます。

教務主任 武田 博清

数理システム学科

数理システム学科は、2008年に新設置され3学年137名(学年定員40)が在学します。2011年度4月、3年次生は進級後に次の8研究室に配属されます:代数学(岡崎龍太郎),解析学(押目頼昌),幾何学(10月着任),関数方程式(溝畑潔),計算数理(三井斌友),統計ファイナンス(津田博史),情報解析(齋藤誠慈),離散数理(渡邊芳英)。幾何学研究室に着任される河野明氏(-2010年京都大学教授)は、位相幾何学の分野で重要な業績を残され、当学科では研究教育と教職指導をされ、本学理工学部の数学教育における種々の重責を担われます。

当学科は、2010度に日本科学技術振興財団振興事業部とサマーサイエンスキャンプ(8/23-25新町校地)を共催し、高校生を対象として“偶然の数学「確率」を遊びながら学ぶ～金融工学のリスクマネジメントを理解する～”と題する合宿プログラムを実施しました。高校生から多数の参加希望がありましたことを報告いたします。

また2010年度も引き続き就職難の様子は色濃く、3年次生の今後の就職にも影響が考えられます。進路希望は、教職希望、金融・メーカー系企業就職への希望があり、当学科では、就職・教職説明会(2010年度春秋2回)、個別就職面談の実施、および特別講義に金融系組織・企業のスペシャリストを講師に迎えるなどして、在学生の就職・進学に対する意識の高揚を図っている状況です。現在において、教職希望、あるいは金融・メーカー系企業のいずれの就職を選ぶ場合も、大学院へ進学が必要有益であることを、在学生に勧めています。

まずは、在学生には、数学を中心にした科目の修学に勤め、基礎学力が充実するようにと切に願いながら、当学科教員一同は教鞭を執る次第です。

教務主任 齋藤 誠慈

ひとことエッセー

JABEE（ジャビー）って何？

石井 英志

私が電子工学科を卒業したのは36年前のこと。卒業後は日本電気（NEC）に入社し、コンピュータのハードウェア開発・販売に携わってきました。昨年あたりから「NEC退職まであと2年。その後のことも考えないといけないなあ」と思いはじめ、上司からの紹介により辿り着いた現在の職場は一般社団法人日本技術者教育認定機構（JABEE）です。今だから正直に申し上げると、紹介時の感想は「JABEEって何？まさか仕分けされるような所じゃ…」。



JABEE審査員研修会会場での筆者（石井）

もちろん違っていました。いかにも政府系法人のような名称ですが、完全な非政府組織で、77の技術系の主要な学協会が正会員、27の代表的な企業が賛助会員となり運営されています。JABEEの役割は日本の高等教育機関、主として大学および専攻科を含めた高専における技術者教育プログラムが社会の要求する水準を満たしているかを審査し、認定することです。認定申請のあった技術者教育プログラム（学科そのものまたは学科の中の1つのコース）はJABEEの正会員である学協会から派遣の審査員により審査されますが、審査員の仕事は基本的に無報酬つまりボランティアです。

8月28日から29日にかけて千葉市幕張のとある研修施設において、JABEE審査を担当される予定の方々（主として大学の先生と企業の技術・研究者）を対象にJABEE審査員研修会を開催した際、100人弱の参加者名簿の中に電気工学科の大鉢先生の名を見つけました。大鉢先生には私が1年生のとき電磁気学の授業で教わったことを覚えていましたので、懇親会で探し出し（40年前とは体型が大幅に変わっておられるので（失礼）名札で見つけ出し）、色々お話をさせていただきました。その際先生からぜひJABEEについて書いてほしいとの依頼があり、本エッセーとなりました。

教育プログラムの第三者認定というのは日本ではまだあまり馴染みがありませんが、欧米では長い歴史があり、米国のABETという認定機関ではすでに1973年以来技術者教育プログラムの審査を行ってきました。現在では米国の主要大学のほとんどを含む1837プログラムがABETの認定を受けています。また、米国など6カ国の認定団体が、1989年にワシントン協定という技術者教育の実質的同等性を加盟国間で相互承認するための国際協定を発足させており、JABEEは2005年に本協定に加盟しています（現在の加盟国は13カ国）。これによりJABEE認定プログラム修了者は海外で

の活躍の機会が広がることになりました。また、国内においても認定プログラム修了者に対しては、国家資格である技術士資格を得るための第一次試験が免除されています。

JABEE認定によりこのようなメリットが得られるにもかかわらず、技術者の主要な受け入れ先である企業でのJABEEの知名度はまだまだ高いとはいえません。そのせいもあってか、大学の中にもJABEEの任意認定に慎重な先生方がおられるようです。JABEEでは企業等に認定の効果を積極的にアピールするなどの活動により、認定プログラム修了生の努力がもっと報われるようにすることが必要と考え、活動しているところです。JABEEによる認定制度が始まって今年で10年になります。認定基準や制度はまだまだ改善が必要ですが、認定を受けたプログラムに対するアンケート調査では、受審により教育プログラムの改善が進んだとする回答が90パーセント以上に上っており、認定の効果は着実に表れてきています。現在同志社大学でJABEE認定されているのは機能分子工学科（機能分子・生命化学科）のみですが、これから他の学科も積極的に認定に取り組んでいただきたいと思います。

（昭和49（1974）年電子工学科卒：一般社団法人日本技術者教育認定機構）

同志社を卒業して40数年、そして今思うこと

志村 久二勝

昭和39（1964）年、工学部は3学科（機械、化学、電気）から6学科になり、私は電子工学科の一期生として42年卒業、44年に大学院修士課程を修了しました。

大学院を修了した多くの皆さんはメーカー系に就職する中、航空会社に就職した私は、主に情報システムとマーケティング分野で電子工学の技術革新を活用するユーザーとして国内外で過ごしました。この間の航空機の大型化と高性能化、そして予約、整備、企業経営などを支援するシステムは、これらの電子機器のコストパフォーマンスの驚異的な向上に依存しました。

入社当時は、ミニコンピューターは国内企業育成するとの方針から輸入禁止品で、航空機の安全性向上との大義名分で通産省に特別輸入申請をして、飛行機搭載用の性能分析に不可欠なミニコンを購入した時期でした。このミニコンをジャンボジェットに搭載しての航空機性能の分析システム構築のプロジェクトでは、航空機の操縦実態を知るためにパイロット訓練生と、航空機の構造を学ぶために整備士訓練生と共に学び、またシステムテストで羽田からサンフランシスコまでを飛行データの収集、分析



2010.08 関東42会懇親会・岳温泉にて
（左より）42電気：片桐陽 42化工：永山巖 42電子：筆者（志村）

ひとことエッセー

をしながら観た夜明け前から日の出に至る地平線の色の变化（漆黒，濃紫，濃茜，茜色へ）は，まさに宇宙飛行士の観た地球の情景を感じさせるものでした。

昭和40年当時の海外渡航者が年間20万人程で，1971年には年間100万人を超え（1990年に1100万人）大量航空輸送の時代に突入しました。急増する情報量の処理対応に，メインフレーム（大型コンピュータ）による予約管理，搭乗管理など従来の手作業では対応できない業務処理への対応が進みました。この時のコンピュータのメインメモリーは1Mb，外部ストレージは800Mbで国内主要都市はオンラインで接続され，海外等に関してはテレタイプでのデータ交換がされていました。余談になりますが，昭和40年代初頭に高価なメインフレームとはいえ僅か1Mbのコアメモリーで0.8GbのHDDで300余りの端末がオンライン接続されたのは，今思えば驚異的なシステム開発でした。現在私たちが自宅で使うパソコンのメインメモリーが4Gb，HDDはテラの時代になりそのパソコンの数千分の1の規模です。

現在，同志社東京校友会（首都圏在住の全学部8,000名余りの校友で構成）の常任幹事（理事）の副代表として校友の皆さんと接する機会が多いですが，積極的な参加者の内，工学部（理工学部）出身者が卒業時の比率に比べ圧倒的に高率である事実があります。卒年の42年次では，実活動メンバーの半数以上，60%ほど（卒業時は10数%）にもなり，これには，理工学部の各学科が少人数で且つゼミに必ず所属していたことと卒業後も横の連携がある程度維持されていることが主たる理由と思われる，工学部出身の一人として心強いことです。

最近，新島襄先生に関するお話を伺う機会も多く，なぜ学生時代に知ろうとしなかったのか残念に思うことがあります。また京田辺キャンパスの理化学館に記されているハリス氏の言葉（同窓会ホームページ掲載の下記）も同様，卒業して40数年，ずっしりと感じ入ります。

Seek through your vocation to serve God and humanity. The qualities that go into the doing of good work—patience, self-forgetfulness, a lively sense of responsibility—these also are the quality that go into the making of good man, and without these qualities no man becomes good. Jonathan N. Harris

（天職を通じて神と人間に奉仕するように努めなさい。立派な仕事に通じる資質とは，辛抱強いこと，自己中心的でないこと，責任感に満ち溢れていることであり，これらは信頼される人物をつくる資質でもあり，こうした資質を持ち合わせない者は，決して立派な市民にはなれない。）

（<http://dokonet.doshisha.ac.jp/harris.html> 和訳：42年英文卒 鴨下（旧姓：三宅）眞佐子）

（昭和42（1967）年 電子工学科卒，44年 大学院修了：日本航空株式会社OB）

研究の原動力

正司 武嗣

私は 2002 年に工業化学専攻を修了し、化学業界に携わり始めました。学生時代には教科書でしか見たことのなかった樹脂と、格闘する日々を過ごしております。

さて、私の仕事の原動力は何といっても学生時代以来の趣味である旅行です。最近では、ミネラルウォーターで知られるフランスのエビアンとモンブラン、スイスのジュネーブへ行きました。



モンブランでの筆者(正司)

エビアンって地名？そう思われている方も多いと思いますが、実は全米女子ゴルフツアーにも組み込まれているゴルフコースを擁するリゾートです。2009年に宮里藍が優勝したコースということで、ご記憶にある方もおられるのではないのでしょうか。そんなエビアンでは当然、蛇口をひねればEvianが出てきます。Evianで顔を洗い、Evianのお風呂につかる。少し贅沢な体験をすることができます。

そのエビアンの裏山ともいえるモンブランは、富士山より高い3800mまでロープウェイとエレベータで、麓から30分もかからず上がることかできます。もちろんハイヒールでも、スニーカーでも行くことが可能です。そこは、夏でも氷点下の雪と氷の世界です。

ジュネーブでは国連欧州本部を観光しました。ニューヨークの国連本部に次いで2番目に大きな国連の事務局です。同じ時間のツアーにはヨーロッパを始めインド、中国、アフリカなど世界中から参加者がおられ、少しの時間でしたが交流することができました。普段の生活では決して接することができない方々と話げできたことは、非常に貴重な経験となりました。

いずれも日常生活では得ることのできない「別世界」の体験でした。このように別世界のものを見る、聞く、やってみることができるのが、何ととっても旅行の醍醐味ではないでしょうか。

今後も旅行で得ることができるこのような体験を刺激に、本業の化学でも、「別世界」のものをハイブリッドさせた、従来の発想から抜け出した新たな素材を創作できないか、試行錯誤を続けたいと思います。

(平成12(2000)年 機能分子工学科卒、平成14(2002)年大学院修了：第一工業製薬株式会社樹脂材料事業部)

同窓会活動・リユニオン

2009 年度 理工学部同窓会幹事会記録

- 2009 年 5 月 31 日に第 1 回幹事会を開催し、会長の方針に基づいた活動状況と今後のスケジュールについて審議を行った。
- 2009 年 10 月 31 日に第 2 回幹事会を開催し、総会の議題について審議を行った。

2009 年度 理工学部同窓会総会の報告

2009 年 10 月 31 日京田辺キャンパス食堂購買棟 2 階 京田辺カフェテリア（生協食堂）で開催され、松岡 敬（理工学部長・教授）のご挨拶をいただき、その後以下の議事を審議。

- (1) 2008 年度事業報告、2008 年度会計報告、2009 年度事業計画、2009 年度予算案を承認した。
- (2) 上西会長挨拶ならびに事務局紹介。

2009 年度リユニオンについて

リユニオン懇親会については、参加人数が少ないため中止となった。

2010 年度 理工学部同窓会総会のご案内

2010 年 11 月 7 日(日)に今出川キャンパス（「同志社大学ホームカミングデー 2010」と共催）の至誠館 22 教室で開催致します。

日 時：2010 年 11 月 7 日(日) 14：00 から 15：00

場 所：今出川キャンパス 至誠館 22 教室

審議事項

1. 2009 年度事業報告の件
2. 2009 年度収支決算報告承認及び監査報告の件
3. 2010 年度事業計画及び予算承認の件
4. 同窓会役員選出
5. その他

2010 年度 第 23 回 理工学部同窓会リユニオンのご案内

2010 年の第 23 回理工学部同窓会リユニオンは 11 月 7 日(日)今出川キャンパスにて一昨年と同様、大学のホームカミングデーにあわせて開催致します。11 月のリユニオンは会員の横の交流として学年の 5 N 周年同窓会を 2 次会として企画くださるよう期待しております。今年の 5 N 周年は S30, 35, 40, 45, 50, 55, 60, H2, 7, 12, 17 年卒業の皆様です。

ホームカミングデーでは、興味ある企画が計画されます。ご参加の皆様には大学が記念品も用意致しております。卒業生の皆様がキャンパスに集い、ゼミの同窓生会員とまたクラスメートとの再会と出会いの中で一層母校との絆を深めていただきたいと思います。

同志社創立 135 周年記念「同志社大学ホームカミングデー 2010」は以下の URL にてご参照下さい。

<http://www.doshisha.ac.jp/alumni/info/home.html>

同志社創立 135 周年記念「懸賞論文」

学校法人同志社は、2010年に創立135周年を迎えるにあたり、135年の歴史と伝統、さらに、200年の大計を目指す同志社の姿を広く社会に発信するため様々な記念事業及び記念行事を企画し、同志社創立135周年事業の一環として、新島襄または同志社に関する論文を募集しています。理工学部同窓会も協賛しています。

詳細については、応募要項をご覧ください。

http://www.doshisha.ed.jp/information/new_20100705.html

同志社京田辺祭が変わる

昨年の理工学部同窓会リユニオンと共同開催をしました同志社京田辺祭はADAM祭と呼んでおり、2万人の来場者が訪れました。今年から愛称をクローバー祭と名前を変えて京田辺キャンパスで10月30日(土)・31日(日)に開催されます。同志社京田辺祭(クローバー祭)は、学生・教職員・市民が一体となって、共に楽しみ、ふれあい、交流する場を創出し、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成を目指しています。“祭”期間中は、京田辺校地内にて、本学の学生・教職員をはじめ、けいはんな地区の様々な団体が演奏、模擬店、展示会、体験教室、講演会等を催し、“祭”を盛り上げます。ぜひ、京田辺校地にお越しいただき、祭のにぎわいを肌で感じてみて下さい。ホームページURLは下記の通りになります。

<http://doshishacllover.web.fc2.com/>

同志社大学「キャンパス再編計画について」

同志社大学は、1949年から55年の間、神、文、法、経済、商、工(現在、理工学部)の6学部体制でしたが、1986年京田辺校地を開校し、現在では4学部(文、法、経済、商)の1,2年次生、文化情報学部・文化情報学研究科、理工学部・工学研究科、生命医科学部・生命医科学研究科、スポーツ健康科学部、心理学部の全学年が学ぶ体制に変遷してきました。本年2010年に同志社中学校が岩倉校地に移転し、その跡地を大学が利用することとなり、2013年4月には文系学部の1,2年次生が移動、今出川校地の中学校グラウンド跡に新しい建物が建設され、今出川が激変いたします。さらに、今出川校地北側の「京都市産業技術研究所繊維技術センター」用地を京都市から譲渡され語学の授業の中心となる予定になっております。

また、同志社大学は、我が国の「留学生30万人計画」に基づいて文部科学省が打ち立てた「国際化拠点整備事業(グローバル30)」に採択された13大学の中に選ばれ、新島襄の導きによって豊かな国際性を育んできた同志社の国際化が加速度的に推進されるものと期待されています。その目的にそって、京田辺地区に新たに「京都厚生年金休暇センター(ウエルサンピア京都)」跡地を取得し、そのキャンパス名称を「多々羅キャンパス」と決定しました。このキャンパスでは、国際交流及び地域との共生をめざした活動を積極的に展開していきます。

同志社大学ホームページアドレス <http://www.doshisha.ac.jp/>
理工学部同窓会ホームページアドレス <http://dokonet.doshisha.ac.jp/>

2010年度 同窓会会費納入のお願い

同窓会の運営は同窓会費によっておこなっております。同窓生の方は、今年度会費2,000円を同封の用紙にて下記の郵便口座へお支払い下さいますようお願い申し上げます。何卒宜しくご理解ご協力のほどをお願い申し上げます。(すでにお支払いくださった方は本文は関係ありません。)

郵便振替口座 同志社大学工学部同窓会 00990-0-151193

同志社大学 京田辺キャンパス

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3

理工学部・理工学研究科事務室 Tel:0774-65-6200 Fax:0774-65-6800

理工学研究所事務室 Tel:0774-65-6220 Fax:0744-65-6804

同志社大学理工学部同窓会へのご質問、ご意見あるいは
本冊子「DoKoネット」へのご投稿をお待ちしております。
同窓会事務局あてにご自由に連絡、投稿下さい。

2010年9月30日発行

同志社大学理工学部同窓会

発行者：上西 勝也

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学理工学部内

理工学部同窓会事務局 Tel:0774-65-6219 Fax:0774-65-6850

印刷：大枝印刷株式会社 Tel:06-6381-3395 Fax:06-6318-2000